

徳泉寺報

No.0038

発行
令和2年12月
発行元 徳泉寺
仙台市宮城野区
榴岡3-10-3
(022)297-4248
tokusenji.sendai@gmail.com

住職・前任職に聞く

二〇二〇年を振り返って

大きな変化の中で揺れに揺れた一年でした。住職と前任職に今年の徳泉寺をまとめてもらいましょう。 < 住職 || 真爾 前任職 || 秀和 >

◎二〇二〇年、一言でいうとどんな一年でしたか。

秀和 「窮屈」な一年でした。マスクをしないと外を歩けない。行きたい旅行にも自由に行けない。何となく常に窮屈さを感じました。

真爾 「片づけ」かな。自粛期間中、だいぶあちこち片づけました。特に物置からはガレージいっぱい古いものを処分しました。

秀和 私だけでなく社会全体がだいぶ「忍耐」を強いられた感じがするね。その中で余分なものがそぎ落とされて本質が見えたというか、そんな感じはありました。窮屈で不自由な中で自分の大切なものはこれだとか、このことが自分を支えているんだ、と思ったり。あとはやっぱり人と人とのつながりの大切さはこういう時だから余計に強く感じたね。

◎その中でも新しい取り組みもありました。

真爾 ホームページの立ち上げと大学生のボランティア「むすびめ」さんとの連携がありました。ホームページは狙ったわけではないけど、ちょうどこのタイミングで完成して結果としてお寺に来たくても来られない方々に届けることができたんじゃないかと思います。

◎仏教の教えの中で、特に心に響いたことはありましたか。

真爾 「無常」ということです。すべてのことは常に変化し、同じ明日が来ることはないのだ、と改めて実感しています。

秀和 私は最近、過去の自分を思い出して後悔するようなことがたくさんあって。法話では「どんな経験も全部自分になるための肥料だ」と話しているにも関わらずこうした思いにとらわれる、人間とは難しいなあと感じています。

◎さて、来年は？

真爾 片づけ終わった物置に本をたくさん並べて皆さんに気軽に足を運んでいただけるような場を作れたらと考えています。「むすびめ」さんの活動とも関連して大人も子どももリラックスして抛り所にできる「寺子屋文庫」の創設を計画しています。私は今まで書き溜めた文章や自費出版した本をもう一度整理してまとめ直してみたいと思っています。

仏の教えのもと、皆さんの傍にあり続ける徳泉寺でありたいと思います。

INFORMATION

修正会

2021年1月1日
10時30分より
徳泉寺本堂にて
勤行、法話
持ち物 お念珠、勤行本

新しい年の初めの一日。

徳泉寺では変わらず肅々と新年最初の勤めを致します。が、皆様はこういう折ですのでもくれぐれも無理のないように。本堂を開放しておきますので心配な時は時間をずらしてご来院ください。それぞれの場所で新たな一年に手を合わせ、願いを受け取る元日になりますように。